令和3年度　まちづくりトーク　主な意見

開催日:　10月29日（金）

会　場:　川西コミュニティセンター

1.地域の防災

項目	参加者の発言	市の発言
災害・避難状況	・川西の防災について，水浸地域についての危機感はない。床上浸水はないが，山間地もあるので，小河川の氾濫やがけ崩れなど単発的な被害が出る。個別事案になりがちである。 ・美波羅川については，急激に水位が上がるので，危険度は増している。今回は，田んぼが冠水した箇所がある。 ・川西コミュニティセンターは，基幹避難所となっているが，平成30年には，53人の避難者があった。今年の雨では，6名の避難者。川の土手が抉れたなどがあったが，大きな被害はなかった。	－
防災士について	防災士を育成し，5名の防災士が活動している。男性だけで担うものではなく，女性でなければできない役割もあるので，今後，女性防災士を増やしていきたい。	－
防災電話帳	・15年前から要避難支援者の名簿を各戸作成している。防災の連絡帳（電話帳を兼ねる）を集落ごとに編纂している。 ・今年度，集落ごとに全戸の防災電話帳を再編集する予定である。チェック欄も設けており，電話帳（集落ごと，見える色，家庭の緊急連絡先など）を電話の近くに置くようにしていただき，緊急時に活用できるようにしている。また，川西自治連合会は地区全体の名簿を持ち，各町内会長はその集落の名簿を電話帳と合わせて持っている。普段の生活でも，倒れた方がいる際は，119番をして，その後，電話帳を活用して緊急連絡先に連絡をする。 ・昨年の防災訓練では災害図上訓練(DIG)を行い好評だった。防災訓練は今年も行う予定である。	・川西では，防災についても，詳細な計画を作成されている。市では現在，要支援者の個別避難計画について検討しているので，参考にさせていただきたい。 ・緊急時には，電話帳を活用するということは先進的な素晴らしい取組と思う。
火災警報器	10年ほど前，川西自治連合会が中心となり，住宅用火災警報器を川西地区のほぼ全戸に設置した。	－
避難する側の意識向上	・平成30年の豪雨時には，男性は防災活動で家を空けており，小さい子どもや高齢者が自宅に居るため心配だったので避難所へ避難した。 ・避難して思ったことは，例えばミルクを作るのにポットはどこにあるかなど，何がどこにあり，どう動けばいいかなど，避難所に集まった後の訓練も必要であると感じた。また，避難した側の人たちの意識の向上も必要である。 ・防災月間等を利用して，学校の授業で段ボールベッドを作成したり，調理室で炊き出しをするなど，学校や地域イベントで楽しく訓練ができればいいと思う。どこに何があるのか書いてあれば，初めて行った場所でも対応できると思う。 ・4年前から，ほしはら山の学校で，防災キャンプをしている。	・コロナ等で避難所設置にも手間と時間がかかるようになっている。避難された方で，できることを分担して避難所の運営を行うことが必要であり，そのためにも日頃から地域の方が避難所運営訓練に参加することが大切と考える。 ・「防災キャンプ」は，子どもたちがアウトドア体験をしながら，楽しく防災についても学ぶことができるし，実際の避難所の運営にも役立つ取組である。
防災の取組について	防災について，あまりに仕事を押し付けるとやり手がいなくなる。「気づいたことでよいので，できることをしてほしい」という姿勢が大事。防災に限らず，地域活動は「楽しい」ことが基本と考えている。	－
砂防ダム・災害復旧	・土砂が埋まっている砂防ダムについて，撤去はどこに頼めばいいのか。 ・昭和47年の大水害で美波羅川の堤防が切れた。平成30年も今年の大雨でも決壊した。できれば早く修理をしてほしい。	砂防ダムについては，県が整備している場合もあるので，県に確認し，現在の状況と今後の対応について報告をさせていただく。

令和3年度　まちづくりトーク　主な意見

開催日：　10月29日（金）
会　場：　川西コミュニティセンター

２．持続可能なまちづくりについてなど

項目	参加者の発言	市の発言
地域の担い手の養成	・地域の担い手の養成は人口減少・高齢化の中，重要な課題である。一人の人に役割が集中しているのが現実である。防災組織で，やることが増えると，役員のなり手がいなくなるので，負担がかからないようにしている。「できる時にできる人が，できることをやる」という方針にしている。楽しく活動していただくことが大事である。 ・ほしはら山の学校は特徴的なプログラムをしており，楽しめる。川西自治連合会も連携していく。	人材育成が課題であるが，川西では上手に人材を育成されていると認識している。
地域づくり	・国（農林水産省）の事業で自転車を6台購入して，サイクリングのモニターツアーを行っている。また，瀬戸内の団体とも連携して5月にライド＆ウォークというイベントを実施している。このイベントでは川西の地域資源である「堂さん廻り」をすることができる。また，立ち寄り所を設け，縁側カフェなどのおもてなしと同時に地域内外との交流も行っている。 ・地域づくりで必要なことは，かかわった人をどれだけ作れるかということが重要であると思う。地域の田舎レシピ集を作成中だが，一部の人がやっているのではなく，すべての人がかかわっている。	迎い入れる側も，楽しんでやっておられる感じがする。色々な方々が地域づくりに参加していることは素晴らしい。参加する人が楽しむことが秘訣であり，川西自治連合会の方々が笑顔で取り組んでおられる。
スマホ教室・川西限定アプリ	・市主催のスマートフォン教室に70代，80代の人たちが参加され，積極的で楽しそうであった。70代まではスマートフォンを持たれていると思うが，80代からは少なくなる。 ・川西ではモデル事業として「川西暮らしアプリ」を使い，身近な情報の受発信の実証実験を行っている。 ・高齢者にもスマートフォンやタブレットに慣れてもらい，今後の生活に活用してもらいたいと考えている。川西地域だけの実証実験では規模が小さいので，エリアが広がればいいと思う。	三次市では，高齢者向けのスマートフォン教室を計画して実施している。